

経済・金融フラッシュ

No.07-152 2008/02/08

1 月マネー関連～中小企業向けに貸出慎重な動きも

ニッセイ基礎研究所 経済調査部門 シニアエコノミスト 矢嶋 康次

TEL:03-3512-1837 E-mail:yyajima@nli-research.co.jp

1. 貸出動向：足元までは緩やかに増加、先行き中小向けに不安

日本銀行が2月8日に公表した貸出・資金吸収動向等によると、1月の総貸出（平残、銀行・信金計）は前年比0.4%と24カ月連続のプラスとなった（図表1）。

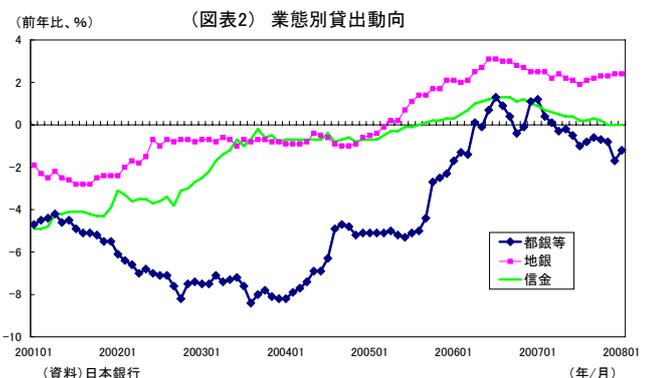
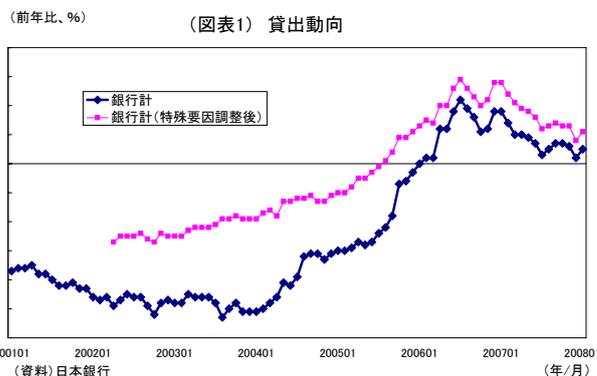
業態別では、地銀は同2.4%と比較的高い伸びが続いているが、都銀等は同▲1.2%と10カ月連続で前年比マイナスが続いている。（図表2）。

貸出先別貸出金（1/31日公表、12月分）を見ると、地方公共団体、個人向けは堅調を維持しているが、法人向は12月▲0.1%と4カ月連続でマイナスとなっている（図表3）¹。

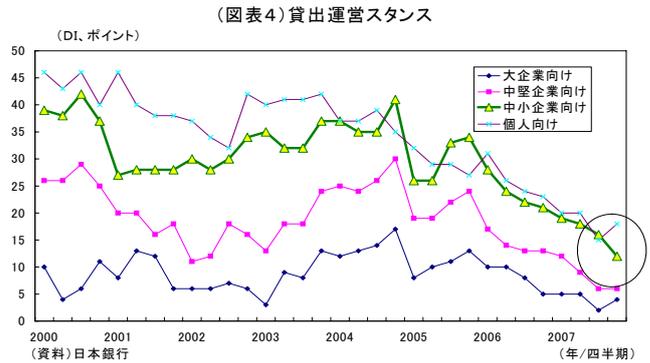
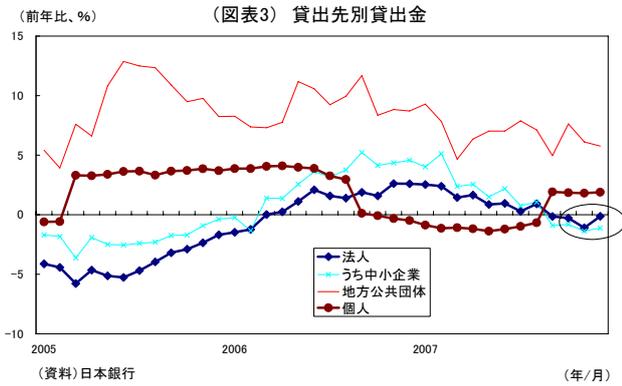
特に中小企業向けは減少傾向が明確となりつつある。

四半期1回の主要銀行貸出アンケート調査（直近11/23日公表）では、企業の資金需要は昨年の夏場以降頭打ちの状況にあるが大きく急減する状況ではない。しかし銀行サイドでは、格付別利ざや設定、貸出運営スタンスで厳しい動きが出始めている（図表4）。

足元、零細・中小企業での倒産が増加しており、クレジットクランチが懸念される状況になってきている。



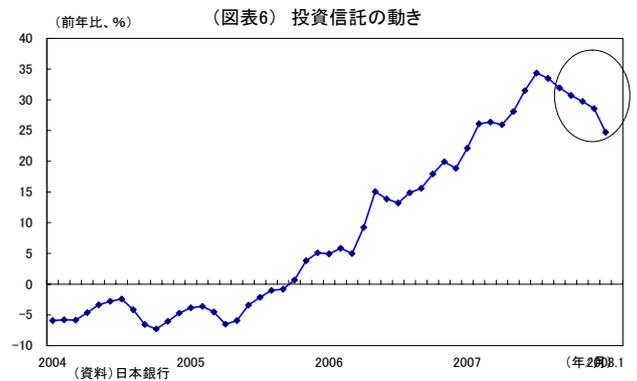
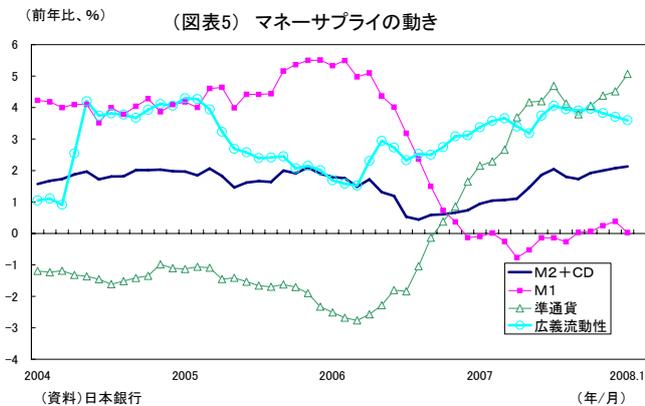
¹ なお12月分から統計の変更が行われている（具体的には、「個人向け貸出のうち、事業用資金に分別できるものは「個人」から除き。事業用、非事業用に分別困難なものは、「個人」に計上。ただし、2004年3月以降の計数と2006年9月以降の計数についてそれぞれ、事業用、非事業用について分別し、事業用資金を「個人」から除いた）。



2. マネーサプライ：リスク資産から安全資産へ

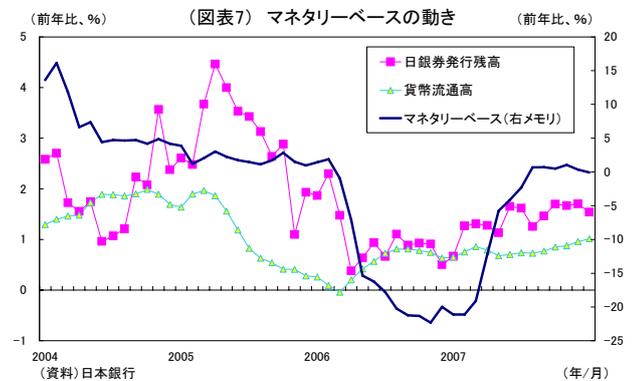
マネーサプライ統計 (2/8 日公表) によれば、1月のM2+CDは前年比2.1%、広義流動性は3.6%と、広義流動性の伸びがM2+CDよりも高めとなる動きが続いている (図表5)。

世界的に株安が続いていることで、投資信託から安全資産である定期預金などの準通貨へのシフトが鮮明になってきている。投資信託の伸び率は、8月から6カ月連続低下、一方準通貨は4ヶ月連続伸び率増加となっている (図表6)。



1月分マネタリーベース (2/4 日公表) は、前年比▲0.1%と昨年7月以来6カ月ぶりのマイナスとなった (図表7)。

日銀券発行残高1.5%、貨幣流通高1.0%は安定した動きが続いているが、当座預金残高が大幅に減少している。



(お願い)本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものでもありません。

(Copyright ニッセイ基礎研究所 禁転載)